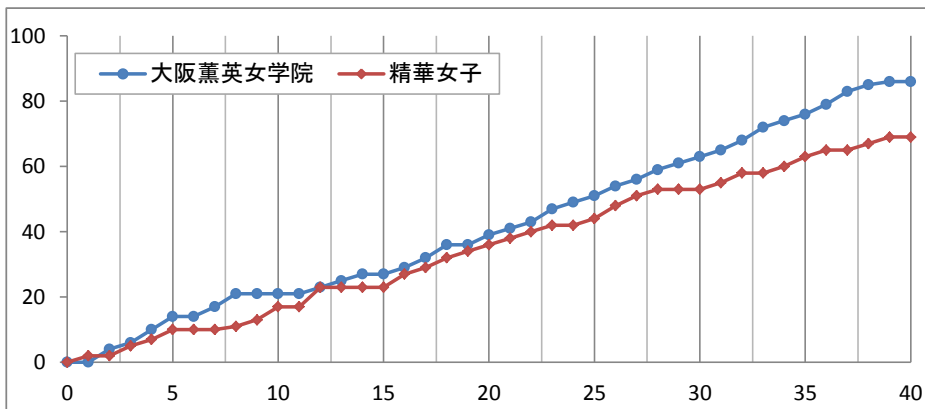


平成25年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技 第66回全国高等学校バスケットボール選手権大会

女子 3回戦 **大阪薫英女学院 86** (大阪) ○ **69 精華女子** ● (福岡)

主審 渡邊 亮
副審 稲葉 威

No. 31h1 日時: 2013年7月31日(水) 10:00 会場: ダイハツ九州アリーナ



大阪薫英女学院

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	* 小池 遥 (C)	10	1	3	1	0
5	* 今仲 杏奈	29	0	13	3	2
6	* 本田 陽菜乃	14	0	7	0	2
7	福島 かな	-	-	-	-	-
8	森山 夏未	5	1	1	0	3
9	* 加藤 宇希波	7	1	2	0	0
10	* 石井 杏奈	20	2	5	4	0
11	梅 華蓮	1	0	0	1	2
12	友田 真耶子	-	-	-	-	-
13	森山 奈美	-	-	-	-	-
14	澁谷 咲月	-	-	-	-	-
15	中澤 祐子	-	-	-	-	-
コーチ	長渡 俊一					
合計		86	5	31	9	9

精華女子

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	* 足立 結唯 (C)	12	2	3	0	2
5	* 有田 かな	7	0	3	1	3
6	* 瀬山 楓	26	0	12	2	2
7	* 後藤 優	17	1	6	2	4
8	* 大石 真央	0	0	0	0	0
9	細田 幸伽	-	-	-	-	-
10	藤田 さくら	0	0	0	0	0
11	渡辺 葵	7	0	3	1	0
12	栗原 颯生	0	0	0	0	0
13	土屋 りさ	-	-	-	-	-
14	渡辺 由依菜	0	0	0	0	0
15	橋本 真彩	-	-	-	-	-
コーチ	大上 晴司					
合計		69	3	27	6	11

*...スターター (C)...キャプテン 3P...3点シュート 2P...2点シュート FT...フリースロー F...ファウル

戦評

ベスト8進出をかけた大阪薫英女学院と精華女子の戦い。試合前から接戦、好ゲームの予感を漂わせるカードである。お互いにハーフコートでのマンツーマンディフェンスを展開。精華女子#5のスピードに乗ったプレーで先制。大阪薫英女学院も#10のリバウンドシュート、#5のランニングプレーで得点。序盤、大阪薫英女学院の攻撃が冴え、特に#5のインサイドプレーが光った。しかし、精華女子も#6、#7、#4の個人技を生かしたプレーで対抗。21-17で大阪薫英女学院がリード。

第2ピリオド、精華女子ボールでスタートし、#4から#11へのアシスト、#6のジャンプシュート、#7のスピードを生かしたプレーで果敢に攻めた。一方、大阪薫英女子学園は落ち着いて#4、#6を中心に自分たちのバスケットを展開した。終了間際、精華女子は#7の速いドライブで連続得点をあげ、同点とするが大阪薫英女学院#9の3Pが決まり39-36の大阪薫英女学院3点リードで後半へつないだ。

第3ピリオド、精華女子#4の個人技を生かしたドライブ、#6の速攻などで得点を重ねる。しかし、大阪薫英女学院は厳しいディフェンスと前半同様の展開、#4、#6、#5の積極的なプレーで追撃を許さない。精華女子#11のリング下バスケットカウントで流れを呼び込むが、大阪薫英女学院#8の3P、速攻、#6の時間を使った落ち着いたドライブで得点。63-53で大阪薫英女学院が二桁リードで終了。

第4ピリオド、10点のビハインドから精華女子ボールでのスタート。精華女子#7が積極的にリングへ向かい得点。#4の3Pも決まり、ディフェンスはオールコートでプレッシャーをかける。大阪薫英女学院はこのディフェンスに対応し、落ち着いた#4の3Pや#5のハイポストプレーで加点。時間が経過していく中で、精華女子は動きを止めず、#6、#7が積極的にリングへ向かった。精華女子は残り4分18秒で最後のタイムアウトを請求。しかし、大阪薫英女学院の相手をよく見た落ち着いたオフェンスをなかなか抑えることができない。精華女子も#7が果敢にスティールを狙いボールを奪うが得点には結びつかない厳しい状態が続く。結局、86-69で大阪薫英女学院が勝利し、ベスト8へとコマを進めた。お互いにオフェンス、ディフェンスともハイレベルで、ボールを最後まで追う姿はアリーナ内に感動を与えた。

© 2013 Yuzo Kosaka All Rights Reserved Vol.007a

記事者 久恒 晴彦 (所属) 大分県バスケットボール協会